

## 聖林寺

聖林寺は真言宗の寺であり、712年に藤原氏の繁栄を祈願するための場所として創建された。藤原氏は皇室と深いつながりを持っていた、有力な氏族であった。何世紀もの間に何回もの火災に遭った聖林寺は、そのすべての建物が18世紀に再建された。今日、この寺には数多くの宝物が収められている。そのうちのひとつ、十一面観音像は、8世紀につくられ、国宝に指定されている。

日本の古代の文学によく登場する小倉山に位置する聖林寺からは、日本の文明の発祥の地であり、日本における仏教の起源ともなったかつての大和地方の素晴らしい眺めを見渡すことができる。3世紀の日本初の王朝の君主であった女王卑弥呼の墳墓（古墳）も遠くに見える。それは長細い、木の生い茂る丘で、「箸墓」と呼ばれている。日本最古の神社のひとつがある大神山は、この古墳の東側に見える。